

地域を愛し地域の方々のために尽くす志を育てる。

下関市立吉見中学校

学校運営協議会について

①委員の構成

14名（自治連合会長、吉見支所長、校区自治会会長、水産大学校准教授、県議会議員、吉見中ふるさと協育ネット Co、民生児童委員長、小学校区代表、コムスク Co、現PTA 会長） ※学校教職員（校長・教頭・生徒指導主任・教務主任）

②実施回数 定期3回

③主な協議内容

- ・本年度の学校経営方針（4月）の承認。綱紀保持委員会も含む
- ・ふるさと協育ネットでの取組について
- ・前期学校評価（7月）並びに後期学校評価（2月）
- ・来年度の学校運営について ※第1回はコロナウイルス感染症対策により書面表決

特色ある活動

◆地域が支える学校（生徒への支援活動）

①花ごころ

月1回保護者・地域の方が花を持ち寄り、生徒と共に花を生け、各学級や廊下に飾っています。卒業生の保護者を中心に地域の活動として定着しています。

②高校受験に向けて面接指導

3年生に対し、学校運営協議会委員が面接指導を行いました。生徒は緊張感のある面接を体験し、面接官である学校運営協議会の方々は、中学生の意見や考え、真剣な姿に触れることで、生徒や学校への理解が深まりました。

◆地域を支える学校（生徒・学校が地域の活性化・安全に貢献する活動）

①まちづくり協議会との協働による「地域活性化」に向けての取組（毎年実施）

地域から依頼を受け、校区の無人駅を盛り上げるイベント（本年度中止）や、地域の花壇づくり、夏祭りに生徒がボランティアで参加した（本年度中止）。

行事によっては生徒が企画から参画しており、地域の担い手として期待されています。

②子どもと大人の地域合同津波避難訓練

今年で9回目。校区内の全園児・児童・生徒と地域の方の合同避難訓練。消防分団や見守り隊、自衛隊下関基地隊や北消防署、下関警察署、水産大学校などの本格的支援を受け、3つの避難場所に合計約400名が訓練集合。



③ふれあい給食会

毎学期、各地域の長寿会や地域ボランティアの方々等をお招きして、生徒と共に給食を食べる会を開催した、心のふれあいの場の設定。（本年度中止）

来年度に向けて

来年度も、コロナウイルス感染症予防対策が必要不可欠です。本年度の取組を参考に、ICTを活用した開催等の工夫を行う予定です。

「開かれた学校づくり」をめざして

下関市立吉見小学校

学校運営協議会について

①実施回数

年4回開催

②主な協議内容

- ・令和2年度の活動計画（第1回）
- ・1学期の取組と学校評価アンケートについて（第2回）
- ・2学期の取組について（第3回）
- ・学校評価アンケートと令和3年度の学校運営方針について（第4回）

③コーディネーターの活動

- ・学校運営協議会開催の前に、CS会長、校長、教頭と打合せをしています。
- ・議題に関係する担当者と事前に打合せを行っています。
- ・学校支援活動を実施するため、学校の担当者と打合せをしたり、支援者との連絡調整をしたりしています。
- ・学校支援活動を実施する際には、参加者への連絡や道具の準備、後片付けを行っています。
- ・学校の要望により、学校支援ボランティアの募集をしています。

特色ある活動

吉見小学校のコミュニティ・スクールの取組は

①読書ボランティア ②芋植え・芋掘り体験 ③田植え・稲刈り・餅つき体験 ④しめ縄づくり体験 ⑤吉見小校区オリエンテーリングの5つであるが、今回は吉見小校区オリエンテーリングの活動について紹介します。

「吉見小校区オリエンテーリング」は数年前まで実施していたが、諸事情により途絶えていた。本年度地域とともにある学校づくりを推進するためにこの活動を復活させました。

吉見小校区にある名所史跡をピックアップし、国道191号線を境に2つの地域に分けました。今年度は国道より海側を中心に散策する計画を立て、縦割り班（わんぱく班）で回ることにしました。

14班のそれぞれに地域の方や保護者が同行し安全確保に努めました。教職員は各ポイントに待機し、訪れる場所の説明やクイズ企画しました。この活動は、児童にとって地域の方とふれあい、地域の名所史跡を知る良い機会となりました。



来年度に向けて

来年度は、国道の北側（山側）にある名所史跡を回る予定です。学校のカリキュラムの中では教えられないことを地域の方とのふれあいの中で学ばせたいと思っています。地域の子どもは地域が育てるという観点からも、地域の方や保護者の参加を今年以上に充実させる計画です。これをきっかけに、地域のことを深く知り、郷土愛を深めることができる活動に発展させたいと考えています。

地域の学校「吉母小」

～学校は地域のために、地域は学校のために～

下関市立吉母小学校

学校運営協議会について

- ・本年度の学校経営方針の説明と活動計画について(1学期)
- ・学校行事・活動内容について(2学期)
- ・本年度反省・来年度学校経営方針について(3学期)
- ・学力向上・授業力向上について(ユニット型研修会:12月)
- ・吉見地区ふるさと協育ネット会議(兼小中合同学校運営協議会)
…3回目については、書面開催

特色ある活動

◆「ふるさとを愛する心」の育成に向けた取組

- ・北九州市立合馬小学校との“山の子と海の子の交流”は今年度61周年を迎えました。今年は直接の交流はできませんでしたが、春には筍が届き、お礼に、吉母の砂浜で集めた貝殻を使った「貝殻ブローチ」を地域の皆さんと作って合馬小学校の皆さんにプレゼントしました。また、11月には合馬小から素晴らしい竹灯籠が届き、本校1・3年生の牛乳パックランタンとともに12月に行われた「吉母公民館キャンドルナイト」を彩りました。
- ・自治連合会・長寿会・漁協等地域団体と協力し、吉母の宝である黒嶋海岸の清掃を行っています。きれいになった海岸に、地域の方が育ててくださった浜木綿の苗を、毎年みんなで植栽しています。今年、10月に毘沙ノ鼻公園に飛来してきたアサギマダラのマーキングを行いました。

◆ふるさとの“名人”に学ぶ

- ・12月には地域在住の竹細工名人をはじめ長寿会・萌え気会の方々をゲストティーチャーに招き、「ミニ門松づくり」「ふれあいしめ飾りづくり」を行っています。材料もPTAや地域の皆さんが地元でとれたものを準備していただきます。
- ・1月、地元書道家の指導のもと行われる「ジャンボ書初め大会」は今年で6年目になり、吉母の風物詩になっています。今年の一文字は「幸」。地域の皆さんに見守られる中、児童全員が今年の抱負を書き添え、手形のスタンプを押して素晴らしい作品ができあがりました。1年間体育館に掲示されます。

来年度に向けて

来年度も引き続き吉母のすばらしい自然、地域人材、極小規模校の特性を生かしながら、学校・家庭・地域が一体となった様々な行事や活動を行うことで、「地域に開かれた学校づくり」とともに「地域の活性化」を図っていきます。



貝殻ブローチ作り



合馬小より届いた美しい竹灯籠



黒嶋海岸 浜木綿植栽



アサギマダラのマーキング



ミニ門松づくり



体育館でのしめ飾りづくり



ジャンボ書初め大会

地域や家庭の思いを共有する「蓋井コンパス」

下関市立蓋井小学校

学校運営協議会について

第1回学校運営協議会	令和2年 6月 9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員任命書授与 ・令和2年度学校運営方針 ・令和2年度学校行事と動き
第2回学校運営協議会	令和2年10月21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会 ・学校評価アンケート結果 ・熟議
第3回学校運営協議会	令和3年 2月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の取組と来年度の委員 ・令和3年度学校運営方針案検討 ・令和3年度学校行事案検討

特色ある活動

目標化		価値観	
月	習慣化する行動	大事にする言葉	大事にする言葉
4	えんぴつを持って歩いてばさそらえよう	4	挨拶
5	ゴミを拾って正しい箱に投じよう	5	感謝
6	プリントをぬいとりしよう	6	体験
7	自分のしやをチェックしよう	7	責任感
8	自分のメディア利用をしらべよう	8	家族
9	読書をして感想をつたえよう	9	安全
10	時計をみてこうどうしよう	10	意欲
11	手を洗ってほごうしよう	11	行動
12	机の上をきれいにしよう	12	努力
1	帰宅後30分間メディアの時間をとろう	1	意欲
2	ゆっくりはつきり読もう	2	意欲
3	ゆいり・せいでんしよう	3	意欲

今年度の特色ある活動として、「蓋井コンパス」の策定があげられます。これは、子供たちに対する学校・家庭・地域共通の思いや願いを計画的に配列して児童に示していこうとする取組です。

内容は、第2回学校運営協議会の熟議において、地域の方々や保護者、教職員が話し合っ出されたものをベースにして設定しました。

以前より、地域や家庭の思いや願いをもっと積極的に学校教育の中に取り込むことができると考えていましたが、これにより「望ましい学習習慣の形成」と「大事にしていくべき価値観の共有」について、子供たちに計画的に考えさせたり理解を深めさせたりすることができるようになりました。

やり方としては、「習慣化していきたい行動」と「大事にしたい価値観」を各月一つずつ提示し、月の重点テーマとして、教師が折に触れて話をしたり、子供たちが自ら考えたりする機会にします。現段階では、これを1年又は2年のサイクルで回していくようにしていますが、あくまでも計画的に取り組んだり考えさせたりすることが目的であり、できなかったからといってダメだということではありません。また、学校・家庭・地域それぞれ個の立場で子供たちに語りかけ、考えさせるきっかけにすればよいのであり、まったく同じ考えとか、同じ意見である必要もありません。むしろその方が、ものごとの多面的・多角的な見方・考え方の素地を育むよい機会にもなるととらえています。

来年度に向けて

本来、コミュニティはそれぞれ独自の環境・歴史・文化・構成員等の特性に基づいて成立してきた経緯があります。子供たちには、この「蓋井コンパス」の取組を通して、どうしてこの地域ではこの価値観や習慣化を大切だととらえているのかについて、少しずつ目を向けさせていきたいです。ふるさとに対する理解は、そこからはじまると思っています。